

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
東京観光専門学校	昭和57年10月1日	玉井 正人	〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3丁目21番地 (電話) 03-6734-2939																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 Adaichi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
商業実務	観光専門課程	ブライダル学科 (ブライダルフラワー専攻)	平成12年2月8日 文部科学省告示第15号	-																							
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「フローリスト」の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																										
認定年月日	平成28年2月29日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	1792	1152	0	1408	0	0																				
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
30人	5人	0人	6人の内数	14人の内数	20人の内数																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件		卒業単位の取得が条件																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 結婚式専門式場、ホテル、レストラン、ドレスショップ、ジュエリーなど		課外活動		■課外活動の種類 各種イベント、ボランティア活動、クラブ活動を行っている  ■サークル活動: 無																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 結婚式場、ウエディングプランナー、衣装会社、ホテルなど ■就職指導内容 就職対策、面接練習、応募書類添削、グループディスカッション対策など ■卒業生数 1 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 : 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・その他1名は非就職希望者  (平成 30年度卒業者に関する 令和1年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BAIブライダルコーディネーター技能検定3 ハーフナルカラー検定</td> <td>②</td> <td>44人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>フォーマルウェア検定準2級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>30人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	BAIブライダルコーディネーター技能検定3 ハーフナルカラー検定	②	44人	30人	色彩検定3級	③	6人	5人	フォーマルウェア検定準2級	③	8人	7人		③	32人	30人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
BAIブライダルコーディネーター技能検定3 ハーフナルカラー検定	②	44人	30人																								
色彩検定3級	③	6人	5人																								
フォーマルウェア検定準2級	③	8人	7人																								
	③	32人	30人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 平成30年4月1日時点において、在学者3名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者2名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など		■中退率 33 %																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf">http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf</a>																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他通常の収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。

ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、特にブライダルフラワー専攻では、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、字校長の下部、教員組織である字務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社FeelingDesign	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
野口 幸一	一般財団法人ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
荒川 明美	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
近藤 紗貴	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
葛原 加奈子	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月23日 14:00～16:30

第2回 平成31年2月15日 14:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け平成30年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ
0	0	0

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

① 専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

② 指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「プライダル業界が求める人材教育について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:平成30年8月23日(木) 対象:プライダル学科教職員全員

【目的】①プライダル業界が社員に求める最新の知識や技術を理解する。

【内容】①プライダル業界の現状について

②業界が求める、ビジネスマナー、一般常識について

③業界が求める人材について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ」(連携企業等:国際プレゼンテーション協会)

期間:平成30年7月26日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ。

②基本習得と体験を通じて、プレゼンテーションの自己課題を見つける。

③プレゼンテーション力を通じて、自分の授業を見直し、また学生指導に役立てる。

【内容】①伝わるプレゼンテーションの基本構造。

②わかりやすい話し方の組み立て方。

③効果的で効果的な考え方。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「プライダル業界の最新動向と求める人材について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:令和元年8月16日(金) 対象:プライダル学科教職員全員

【目的】①プライダル業界の現状を知り、最新の施設や取り組みを理解し学生指導に役立てる。

【内容】①チームワークを必要とする業務が増加する。そのためコミュニケーション力、提案力ができる力を付けることが必要。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生との関わり方を学ぶ」(連携企業等:心理カウンセラー)

期間:令和元年6月13日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる

②こころに影響を与える性格を理解することで的確なアドバイスが行えるようになる

【内容】①こころの形を学ぶことで学生のそれぞれの状態を把握しやすくなる。

②意識はマイナスなことに働きやすいが、プラスなことに頭を使うことで生産性を上げる方法を学ぶ。

③性格を理解することが学生を理解することを学ぶ。

④性格は5つの特徴で表される。その5つの特徴を学ぶ。

⑤性格の良い悪いは環境によるところを学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていないか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関係業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法、内容、ガバナンスの3つの柱を基本に評価をいただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性は明確になっているか、将来構想はあるか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営をレベル別クラスに分割で行うなど、より学生の実情にあわせたものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	日本ケアフィット共育機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
野口 幸一	ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
明石 伸子	日本マナー・プロトコール協会	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
寺田 成利	スカイマーク株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
大澤 直美	ニューヨークキャリアアカデミー	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生
間宮 康平	東京地下鉄株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information\\_disclosure.pdf](http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information_disclosure.pdf)

公表時期: 令和元年5月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2) 各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3) 教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6) 学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7) 学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8) 学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9) 学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11) その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.tit.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルフラワー専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1後2前	64	4	○			○	○			
○			ビジネスマナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1前2後	64	4	○			○	○			
○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1後2通	96	6	○			○	○			
○			ウェディングセレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	96	6			○	○	○	○		
○			ヘアメイク実習(ガーデニング・園芸実習)	草木や花の育て方を学ぶ	1前	64	4			○	○		○		
○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1前	64	4			○	○		○		
○			衣装知識(フラワー知識)	花に関する知識を学ぶ	1通	64	4	○			○		○		
○			フォーマルウェア検定(各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1後	32	2	○			○		○		
○			レストランサービス技能士(ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1通2前	96	6	○			○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルフラワー専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			パーティーサービス実習 (披露宴制作Ⅰ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1通2通	128	8			○	○		○	○	
○			舞台演出 (披露宴制作Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1後2前	64	4			○	○		○	○	
○			空間コーディネート	披露宴会場などの空間のコーディネートに関する技術を身に付ける	1後2通	96	6			○	○			○	
○			テーブルコーディネート	花やバルーンを使ったテーブルコーディネートの方法を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	
○			ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	○
○			カラーコーディネート	色彩検定対策	1通2前	96	6	○			○			○	
○			接客英語 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1前	32	2	○			○			○	
○			ユニバーサルホスピタリティ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1通	64	4	○			○			○	
○			PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1通	64	4			○	○			○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学年の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

（観光専門課程ブライダル学科ブライダルフラワー専攻）															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1後	64	4			○	○				
○			和装着付け	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2前	32	2			○	○			○	
○			ビバレッジ実習 (立ち振る舞い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2通	64	4			○	○			○	
○			MC実習 (接客実習 (プレゼンテーション))	接客の際に必要なお客様への提案の仕方学ぶ	2前	32	2			○	○			○	
○			コーディネーター実務 (ウエディングプランナー実務)	ウエディングプランナーの実務を学ぶことで、結婚式の準備の流れを学ぶ	2通	64	4	○			○			○	
○			空間デザイン (PC)	店舗内の装飾を学ぶ	2前	32	2	○			○			○	
○			ディスプレイ デコレーション (POP・ちらし作成)	フラワーショップでの仕事の際に必要なPOPやちらしの作成方法を学ぶ	2後	32	2			○	○			○	
○			ウエディング プロデュース (キャリアプランニング)	一般常識を学びつつ、社会に出てからのキャリアの積み方を考える	2前	32	2	○			○			○	
○			ウエディング アイテムデザイン (ラッピング実習)	花束やフラワーアレンジメントのラッピングの技術を身に付ける	2後	64	4			○	○			○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルフラワー専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			A B C検定対策	アシスタントブライダルコーディネーター検定対策	2後	32	2	○			○			○	
○			卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2後	64	4			○	○			○	○
○			スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	2前	32	2	○			○			○	
		○	フードコーディネーター	TOEICスコア向上のための海外留学	1通2通	128	8	○				○			○
		○	英検対策&TOEIC	実用英語検定の取得やTOEICスコア向上を目指す	1通2前	192	12	○				○			○
		○	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1後2通	96	6				○	○			○
		○	ヘアメイク実習	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2通	64	4				○	○			○
		○	エステ実習	肌の構造を知り、エステティックの基礎を学ぶ	2通	64	4				○	○			○
		○	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイルリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4				○	○			○
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルフラワー専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	フラワーキャリアアップ	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2通	64	4			○	○			○	
		○	カラーコーディネート	色彩検定対策	2後	32	2	○			○				○
		○	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1後 2後	64	4			○	○	○			
合計						39科目	2560単位時間( 160単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																		
東京観光専門学校	昭和57年10月1日	玉井 正人	〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3丁目21番地 (電話) 03-6734-2939																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人 Adachi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																	
商業実務	観光専門課程	ブライダル学科 (ウェディングプランナー専攻)	平成12年2月8日 文部科学省告示第15号	-																	
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ウェディングプランナー」の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																				
認定年月日	平成28年2月29日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
2年	昼間	1920	1632	0	1440	0	0														
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
80人	50人	1人	6人	14人	20人																
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価																		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件		卒業単位の取得が条件																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、カウンセラーの紹介を行っている		課外活動																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 結婚式専門式場、ホテル、レストラン、ドレスショップ、ジュエリーなど ■就職指導内容 就職対策、面接練習、応募書類添削、グループディスカッション対策など		主な学修成果(資格・検定等)※3																		
	<table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> <td>種</td> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>BAIブライダルコーディネーター技能検定</td> <td>②</td> <td>44人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>フォーマルウェア検定準2級</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>30人</td> </tr> </table>							資格・検定名	種	受験者数	合格者数	BAIブライダルコーディネーター技能検定	②	44人	30人	パーソナルカラー検定	③	6人	5人	色彩検定3級	③
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
BAIブライダルコーディネーター技能検定	②	44人	30人																		
パーソナルカラー検定	③	6人	5人																		
色彩検定3級	③	8人	7人																		
フォーマルウェア検定準2級	③	32人	30人																		
■卒業者数: 31人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
■就職希望者数: 30人		■自由記述欄																			
■就職者数: 30人																					
■就職率: 100%																					
■卒業者に占める就職者の割合: 97%																					
■その他 ・進学者数: 0人 ・その他1名は非就職希望者																					
(平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)																					
中途退学の現状	■中途退学者 3名		■中退率 5%																		
平成30年4月1日時点において、在学者62名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者59名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、学習意欲の喪失など																					
■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度(授業料減免制度)																				
■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																				
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf">http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf</a>																				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- ①「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
- ②「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ③「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ④「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

### 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。

ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、特にウェディングプランナー専攻には必要不可欠なものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、字校長の下部、教員組織である字務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社FeelingDesign	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
野口 幸一	一般財団法人ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
荒川 明美	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
近藤 紗貴	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
葛原 加奈子	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月23日 14:00～16:30

第2回 平成31年2月15日 14:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け平成30年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ
0	0	0

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

##### ① 専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダル業界が求める人材教育について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:平成30年8月23日(木) 対象:ブライダル学科教職員全員

【目的】①ブライダル業界が社員に求める最新の知識や技術を理解する。

【内容】①ブライダル業界の現状について

②業界が求める、ビジネスマナー、一般常識について

③業界が求める人材について

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ」(連携企業等:国際プレゼンテーション協会)

期間:平成30年7月26日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ。

②基本習得と体験を通じて、プレゼンテーションの自己課題を見つける。

③プレゼンテーション力を通じて、自分の授業を見直し、また学生指導に役立てる。

【内容】①伝わるプレゼンテーションの基本構造。

②わかりやすい話し方の組み立て方。

③効果的で効果的な考え方。

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダル業界の最新動向と求める人材について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:令和元年8月16日(金) 対象:ブライダル学科教職員全員

【目的】①ブライダル業界の現状を知り、最新の施設や取り組みを理解し学生指導に役立てる。

【内容】①チームワークを必要とする業務が増加する。そのためコミュニケーション力、提案力ができる力を付けることが必要。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生との関わり方を学ぶ」(連携企業等:心理カウンセラー)

期間:令和元年6月13日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる

②こころに影響を与える性格を理解することで的確なアドバイスが行えるようになる

【内容】①こころの形を学ぶことで学生のそれぞれの状態を把握しやすくなる。

②意識はマイナスなことに働きやすいが、プラスなことに頭を使うことで生産性を上げる方法を学ぶ。



- ③性格を理解することが学生を理解することを学ぶ。
- ④性格は5つの特徴で表される。その5つの特徴を学ぶ。
- ⑤性格の良い悪いは環境によるところを学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていないか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関係業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法、内容、ガバナンスの3つの柱を基本に評価をいただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性は明確になっているか、将来構想はあるか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営をレベル別クラスに分割で行うなど、より学生の実情にあわせたものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	日本ケアフィット共育機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
野口 幸一	ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
明石 伸子	日本マナー・プロトコール協会	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
寺田 成利	スカイマーク株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
大澤 直美	ニューヨークキャリアアカデミー	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生
間宮 康平	東京地下鉄株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information\\_disclosure.pdf](http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information_disclosure.pdf)

公表時期: 令和元年5月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
-----------	-----------

(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されてい
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL : <http://www.tit.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ウエディングプランナー専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ブライダルビジネス実務Ⅰ (業界研究)	ブライダル業界における職種や企業研究	1通	128	8	○			○		○		
○			ブライダルビジネス実務Ⅱ (ウエディングセレモニー (挙式))	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	64	4			○	○		○	○	
○			ブライダルビジネス実務Ⅲ (検定対策)	ウエディングプランナー検定、ドレスコーディネーター検定取得のための検定対策。いずれかを選択する	1通	64	4	○			○		○		
○			就職対策・ビジネスマナー	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方、また「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1通 2通	128	8	○			○		○		
○			接客英語 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1通	64	4	○			○			○	
○			料飲サービス実務Ⅰ (披露宴制作 IⅡ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学び模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1通 2通	160	10			○	○		○	○	
○			料飲サービス実務Ⅱ (FBサービス実習Ⅰ) (立ち振る舞い)	宴会場やレストランにおけるテーブルセッティングおよび料理などのサービスの仕方、接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	1通 2通	160	10			○	○		○	○	
○			料飲サービス実務Ⅲ (ブライダルマーケティング &セールス) (海外ウエディング実務)	売するための仕組みを理論で学び海外挙式やハネムーンの手配に必要な実務を学ぶ	1通	128	8	○			○		○	○	
○			ブライダルビジネス実習Ⅰ (披露宴知識)	披露宴に必要な事柄の由来などを学ぶことで、披露宴に対する知識を深める	1通	64	4	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は96単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ウエディングプランナー専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ブライダルビジネス実習Ⅱ (インターシップ)	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1通	64	4			○		○			
○			ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	○
○			リアルビジネスⅠ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1前	32	2	○			○			○	
○			リアルビジネスⅡ (卒業制作)	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	1後2後	64	4			○	○			○	○
○			リアルビジネスⅢ (卒業制作)	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2前	32	2	○			○			○	○
○			演出論 (選曲・演出知識)	結婚式や披露宴の各場面に合わせた音楽の選び方、演出方法などを学ぶ	1通	64	4	○			○			○	
○			パソコン実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1通2通	128	8			○	○			○	
○			ホスピタリティ産業概論Ⅱ (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1前	32	2	○			○			○	
○			ウエディングプロデュース論 (ウエディングプランナー知識&実習)	ウエディングプランナーの実務を学ぶ	2通	128	8	○			○			○	
合計															
					科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は96単位以上取得しなければならない		1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ウエディングプランナー専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コーディネーター実務 (空間コーディネート&フラワー実習)	バルーンやフラワーを使用し、披露宴会場の装飾について学ぶ	2通	64	4			○	○			○	
○			演出概論 (ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	2通	128	8	○			○			○	
○			パーティー実務 (MC実習)	披露宴の司会進行を実践的に学ぶ	2通	128	8			○	○				○
○			パーティーセールス (教養科目)	各自の就職先に合わせ、社会に出る前にさらに力を付けておきたい科目を3科目選択する。 (FBサービス実習Ⅱ、アテンダー実習、ネイル実習、和装着付け、フラワーアレンジメント、ヘアメイク)	2通	64	4			○	○				○
		○	検定対策	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得を目指す	1通 2通	256	16	○			○				○
		○	検定補習	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得のための補習授業	1通 2通	256	16	○				○			○
		○	語学	実用英語検定の取得やTOEICスコアの向上を目指す	1通 2通	256	16			○	○			○	○
		○	メイク	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1通 2通	128	8			○	○			○	
		○	フラワー	ブーケ及び会場装飾の為の花の技術を身に付ける	1通 2通	128	8	○			○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は96単位以上取得しなければならない	1 学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ウエディングプランナー専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1 通	128				○	○				
合計						28科目	3072単位時間( 184単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は96単位以上取得しなければならない 履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																					
東京観光専門学校	昭和57年10月1日	玉井 正人	〒162-0843 東京都新宿区市谷田町3丁目21番地 (電話) 03-6734-2939																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人 Adachi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																				
商業実務	観光専門課程	ブライダル学科 (ブライダルヘアメイク専攻)	平成12年2月8日 文部科学省告示第15号	-																				
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界においてヘアメイクを手掛ける人材の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																							
認定年月日	平成28年2月29日																							
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	1792	1184	0	1760	0	0																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
40	2	0人	6人の内数	14人の内数	20人の内数																			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏 季:7月25日～8月31日 ■冬 季:12月24日～1月7日 ■春 季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	卒業単位の取得が条件																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、カウンセラーの紹介を行っている		課外活動	■課外活動の種類 各種イベント、ボランティア活動、クラブ活動を行っている																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 結婚式専門式場、ホテル、レストラン、ドレスショップ、ジュエリーなど		主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BAIブライダルコーディネート技能検定</td> <td>②</td> <td>44人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>フォーマルウェア検定準2級</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>30人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	BAIブライダルコーディネート技能検定	②	44人	30人	パーソナルカラー検定	③	6人	5人	色彩検定3級	③	8人	7人	フォーマルウェア検定準2級	③	32人	30人	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					
BAIブライダルコーディネート技能検定	②	44人	30人																					
パーソナルカラー検定	③	6人	5人																					
色彩検定3級	③	8人	7人																					
フォーマルウェア検定準2級	③	32人	30人																					
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中途退学率 0% 平成30年4月1日時点において、在学者3名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者3名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																							
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf">http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf</a>																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。  
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。  
(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)I」は、「学校基本調査」における「関連分野」に就職した者Iに記載します。また、「その他I」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。



1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。

ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、特にブライダルヘアメイク専攻では、新婦のウェディングドレスや新郎のタキシードの着付方法や対応方法は、ヘアメイクの起点となる必須項目であり、婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、字校長の下部、教員組織である字務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社FeelingDesign	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
野口 幸一	一般財団法人ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
荒川 明美	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
近藤 紗貴	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
葛原 加奈子	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月23日 14:00～16:30

第2回 平成31年2月15日 14:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け平成30年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ
0	0	0

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

##### ① 専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダル業界が求める人材教育について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:平成30年8月23日(木) 対象:ブライダル学科教職員全員

【目的】①ブライダル業界が社員に求める最新の知識や技術を理解する。

【内容】①ブライダル業界の現状について

②業界が求める、ビジネスマナー、一般常識について

③業界が求める人材について

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ」(連携企業等:国際プレゼンテーション協会)

期間:平成30年7月26日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ。

②基本習得と体験を通じて、プレゼンテーションの自己課題を見つける。

③プレゼンテーション力を通じて、自分の授業を見直し、また学生指導に役立てる。

【内容】①伝わるプレゼンテーションの基本構造。

②わかりやすい話し方の組み立て方。

③効果的で効果的な考え方。

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダル業界の最新動向と求める人材について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:令和元年8月16日(金) 対象:ブライダル学科教職員全員

【目的】①ブライダル業界の現状を知り、最新の施設や取り組みを理解し学生指導に役立てる。

【内容】①チームワークを必要とする業務が増加する。そのためコミュニケーション力、提案力ができる力を付けることが必要。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生との関わり方を学ぶ」(連携企業等:心理カウンセラー)

期間:令和元年6月13日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる

②こころに影響を与える性格を理解することで的確なアドバイスが行えるようになる

【内容】①こころの形を学ぶことで学生のそれぞれの状態を把握しやすくなる。

②意識はマイナスなことに働きやすいが、プラスなことに頭を使うことで生産性を上げる方法を学ぶ。

- ③性格を理解することが学生を理解することを学ぶ。
- ④性格は5つの特徴で表される。その5つの特徴を学ぶ。
- ⑤性格の良い悪いは環境によるところを学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていないか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関係業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法、内容、ガバナンスの3つの柱を基本に評価をいただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性は明確になっているか、将来構想はあるか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営をレベル別クラスに分割で行うなど、より学生の実情にあわせたものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	日本ケアフィット共育機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
野口 幸一	ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
明石 伸子	日本マナー・プロトコール協会	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
寺田 成利	スカイマーク株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
大澤 直美	ニューヨークキャリアアカデミー	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生
間宮 康平	東京地下鉄株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information\\_disclosure.pdf](http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information_disclosure.pdf)

公表時期: 令和元年5月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
-----------	-----------

(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されてい
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL : <http://www.tit.ac.jp/disclosure/>

## 授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルヘアメイク専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1後 2前	64	4	○			○	○			
○			ビジネスマナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1前 2後	64	4	○			○	○			
○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1後	32	2	○			○	○			
○			ウエディングセレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	96	6			○	○	○	○		
○			ヘアメイク実習	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1通	128	8			○	○		○		
○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1前	64	4			○	○		○		
○			衣裳知識	衣裳に関する知識とドレスサロンにおける実務を学ぶ	1通	64	4	○			○	○			
○			ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイルリストとしての技術を身に付ける	1通	64	4			○	○		○		
○			レストランサービス技能士 (ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1前	32	2	○			○	○			
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない 履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルヘアメイク専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			パーティーサービス実習 (披露宴制作Ⅰ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1通	64	4			○	○		○	○	
○			舞台演出 (披露宴制作Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1後2前	64	4			○	○		○	○	
○			ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	○
○			フォーマルウェア知識 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1通	64	4	○			○			○	
○			ユニバーサルホスピタリティ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1通	64	4			○	○				○
○			カラーコーディネート (パーソナルカラー)	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	1通2通	128	8	○			○				○
○			ファッション販売検定 (筆記対策(一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1後2前	64	4	○			○				○
○			インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1後	64	4			○		○			
○			和装着付け (和装実習&知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2前	32	2			○	○				○
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない 履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルヘアメイク専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			MC実習 (披露宴制作Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	2前	32	2			○	○			○	○
○			コーディネーター実務 (立ち振る舞い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2通	64	4			○	○				○
○			ABC検定対策 (ABC検定対策)	アシスタントブライダルコーディネーター検定対策	2後	32	2	○			○				○
○			卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2後	64	4			○	○			○	○
○			スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	2前	32	2	○			○			○	
	○		ヘアメイク実習Ⅱ	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2通	128	8			○	○				○
	○		エステ実習	肌の構造を知り、エステティックの基礎を学ぶ	2通	128	8			○	○				○
	○		ネイルエキスパート (ネイル実習)	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4			○	○				○
	○		アロマテラピー (ネイル実習)	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4			○	○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない 履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルヘアメイク専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		パーソナルカラー	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	2通	128	8	○			○			○	
	○		衣装販売テクニック (和装実習&知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2通	64	4			○	○			○	
	○		ウエディングアイテムデザイン	ドレスに合わせる小物類の製作	2通	64	4	○			○			○	
	○		和装知識 (和装ヘアメイク)	和装の際のヘアメイクの技術を身に付ける	2前	32	2			○	○			○	
	○		ドレスメンテナンス (アテンダー実習)	介添えの方法を身に付ける	2前	32	2			○	○			○	
	○		ドレススタイルデザイン (衣装トータルコーディネート)	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小物類の合わせ方を学ぶ	2後	32	2			○	○			○	
	○		ドレスコーディネート (衣装トータルコーディネート)	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小物類の合わせ方を学ぶ	2後	32	2			○	○			○	
		○	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイルリストとしての技術を身に付ける	1後2通	96	6	○			○			○	
		○	PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1通	64	4	○				○		○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分		2期
	1学期の授業期間		16週
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる (留意事項)			

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルヘアメイク専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1 後 2 通	96	6			○	○		○		
		○	接客英語	接客で使う英語のスキル向上を目指す	1 前	32	2	○			○		○	○	
		○	英会話	英語力の語学向上を図る	1 後 2 通	96	6	○			○		○		
		○	ブライダルビジネス論	ブライダル業界全般について学ぶ	1 前 2 通	32	2	○			○		○		
		○	ヘアメイクキャリアアップ	ブライダルヘアメイクの技術をさらに向上させる	2 通	128	8			○	○		○		
		○	レストランサービス技能士	国家資格取得に向けての検定対策	2 前	32	2	○			○		○		
		○	フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2 通	64	4			○	○		○		
		○	空間コーディネート	披露宴会場などの空間のコーディネートに関する技術を身に付ける	2 後	32	2	○			○	○	○		
		○	ブライダル情勢論	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	2 前	32	2	○			○		○		
合計					科目		単位時間(							単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない 履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ブライダルヘアメイク専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1後2後	64	4			○		○	○		
合計						46科目		2944単位時間( 184単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない 履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
東京観光専門学校	昭和57年10月1日	玉井 正人	〒162-0843 東京都新宿区西谷田町3丁目21番地 (電話) 03-6734-2939																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人 Adaichi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	観光専門課程	ブライダル学科 (ドレスコーディネーター専攻)	平成12年2月8日 文部科学省告示第15号	-																						
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダル業界が求める「ドレスコーディネーター」の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																									
認定年月日	平成28年2月29日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	1792	1216	0	1728	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
40人	15人	0人	6人の内数	14人の内数	20人の内数																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	卒業単位の取得が条件																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、カウンセラーの紹介を行っている		課外活動	■課外活動の種類 各種イベント、ボランティア活動、クラブ活動を行っている ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 結婚式専門式場、ホテル、レストラン、ドレスショップ、ジュエリーなど ■就職指導内容 就職対策、面接練習、応募書類添削、グループディスカッション対策など ■卒業者数: 12 人 ■就職希望者数: 11 人 ■就職者数: 11 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 92 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・就職しなかった1名は非就職希望者 (平成 30 年度卒業者に関する 令和1年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																						
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BAIブライダルコーディネーター技能検定3級</td> <td>②</td> <td>44人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>フォーマルウェア検定準2級</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>30人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	BAIブライダルコーディネーター技能検定3級	②	44人	30人	パーソナルカラー検定	③	6人	5人	色彩検定3級	③	8人	7人	フォーマルウェア検定準2級	③	32人	30人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
BAIブライダルコーディネーター技能検定3級	②	44人	30人																							
パーソナルカラー検定	③	6人	5人																							
色彩検定3級	③	8人	7人																							
フォーマルウェア検定準2級	③	32人	30人																							
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成30年4月1日時点において、在学者21名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者19名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、健康上の理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など		■中退率 10 %																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度(授業料減免制度) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf">http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf</a>																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。

ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、特にドレスコーディネーター専攻では、新婦のウェディングドレスや新郎のタキシードの着付方法や対応方法については必須であり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、字校長の下部、教員組織である字務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社FeelingDesign	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
野口 幸一	一般財団法人ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
荒川 明美	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
近藤 紗貴	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
葛原 加奈子	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月23日 14:00～16:30

第2回 平成31年2月15日 14:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け平成30年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ
0	0	0

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「プライダル業界が求める人材教育について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:平成30年8月23日(木) 対象:プライダル学科教職員全員

【目的】①プライダル業界が社員に求める最新の知識や技術を理解する。

【内容】①プライダル業界の現状について

②業界が求める、ビジネスマナー、一般常識について

③業界が求める人材について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ」(連携企業等:国際プレゼンテーション協会)

期間:平成30年7月26日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ。

②基本習得と体験を通じて、プレゼンテーションの自己課題を見つける。

③プレゼンテーション力を通じて、自分の授業を見直し、また学生指導に役立てる。

【内容】①伝わるプレゼンテーションの基本構造。

②わかりやすい話し方の組み立て方。

③効果的で効果的な考え方。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「プライダル業界の最新動向と求める人材について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:令和元年8月16日(金) 対象:プライダル学科教職員全員

【目的】①プライダル業界の現状を知り、最新の施設や取り組みを理解し学生指導に役立てる。

【内容】①チームワークを必要とする業務が増加する。そのためコミュニケーション力、提案力ができる力を付けることが必要。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生との関わり方を学ぶ」(連携企業等:心理カウンセラー)

期間:令和元年6月13日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる

②こころに影響を与える性格を理解することで的確なアドバイスが行えるようになる

【内容】①こころの形を学ぶことで学生のそれぞれの状態を把握しやすくなる。

②意識はマイナスなことに働きやすいが、プラスなことに頭を使うことで生産性を上げる方法を学ぶ。

③性格を理解することが学生を理解することを学ぶ。

④性格は5つの特徴で表される。その5つの特鋼を学ぶ。

⑤性格の良い悪いは環境によるところを学ぶ。



4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていないか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関係業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法、内容、ガバナンスの3つの柱を基本に評価をいただく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性は明確になっているか、将来構想はあるか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営をレベル別クラスに分割で行うなど、より学生の実情にあわせたものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	日本ケアフィット共育機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
野口 幸一	ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
明石 伸子	日本マナー・プロトコール協会	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
寺田 成利	スカイマーク株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
大澤 直美	ニューヨークキャリアアカデミー	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生
間宮 康平	東京地下鉄株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information\\_disclosure.pdf](http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information_disclosure.pdf)

公表時期: 令和元年5月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2) 各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3) 教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6) 学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7) 学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8) 学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9) 学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11) その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.tit.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ドレスコーディネーター専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方などの力を身に付ける	1後2前	64	4	○			○	○			
○			ビジネスマナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1前2後	64	4	○			○	○			
○			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1後2前	64	4	○			○	○			
○			ウェディングセレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	96	6			○	○	○	○		
○			ヘアメイク実習	ヘアメイクの基礎を身に付ける	1通	128	8			○	○		○		
○			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1前	64	4			○	○		○		
○			衣装知識 (ドレスメーカーキング)	オリジナルドレスの製作をすることでドレスが店頭に出るまでの流れ、ドレスの構造を学ぶ	1通	64	4			○	○				
○			ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	1通	64	4			○	○		○		
○			レストランサービス技能士 (ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1前	32	2	○			○	○			
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ドレスコーディネーター専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			パーティーサービス実習 (披露宴制作Ⅰ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学ぶ	1通	64	4			○	○		○	○	
○			舞台演出 (披露宴制作Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1後2前	64	4			○	○		○	○	
○			ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	○
○			フォーマルウェア知識 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1通	64	4	○			○		○		
○			ユニバーサルホスピタリティ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1通	64	4			○	○			○	
○			カラーコーディネート (パーソナルカラー)	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	1通2通	128	8	○			○			○	
○			ファッション販売検定対策 (筆記対策(一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1後2前	64	4	○			○			○	
○			インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1後	64	4			○	○				
○			MC実習 (立ち振る舞い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	2前	32	2			○	○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ドレスコーディネーター専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コーディネーター実務(ドレスコーディネーター実務)	ドレスコーディネーターとしての実務を学ぶ	2通	64	4			○	○			○	
○			A B C 検定対策	アシスタントブライダルコーディネーター検定対策	2後	32	2	○			○			○	
○			卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2後	64	4			○	○		○	○	
○			スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	2前	32	2	○			○		○		
	○		パーソナルカラー	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	2通	128	8	○			○			○	
		○	衣装販売テクニック(ドレスコーディネーター実務)	ドレスコーディネーターとしての実務を学ぶ	2通	64	4			○	○			○	
		○	ネイルエキスパート	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイルリストとしての技術を身に付ける	2通	64	4			○	○			○	
		○	ヘアメイク実習Ⅱ	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2通	128	8			○	○			○	
		○	エステ実習(サロン実習)	ドレスサロンにおける接客を学ぶ	2前後	128	8			○	○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない	1 学年の学期区分	2期
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ドレスコーディネーター専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ウエディング アイテムデザ イン	ドレスに合わせる小物類の製作	2 通	64	4			○	○			○	
○			アロマテラ ピー (フォーマル ウエア検定 対策)	フォーマルウエア検定対策	2 通	64	4	○			○			○	
○			ドレスメンテ ナンス (衣装メンテ ナンス)	ドレスコーディネーターの業務の一つである衣装メンテナンスの技術を身に付ける	2 前	32	2			○	○		○		
○			和装知識 (和装実習& 知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 前	32	2			○	○			○	
○			ドレスコーデ ィネート (衣装トータル コーディネ ート)	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小物類の合わせ方を学ぶ	2 後	32	2	○			○			○	
○			ドレススタイ ルデザイン (衣装スタイ ル知識)	婚礼衣装に関わる各スタイルの違いを学ぶ	2 後	32	2	○			○			○	
		○	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	1 前 2 通	96	6	○			○			○	
		○	PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1 通	64	4	○				○		○	
		○	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1 後 2 通	96	6			○	○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科ドレスコーディネーター専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	接客英語	接客で使う英語のスキル向上を目指す	1前	32	2	○			○		○	○	
		○	英会話	英語力の語学向上を図る	1後 2通	96	6	○			○			○	
		○	ブライダルビジネス論	ブライダル業界全般について学ぶ	1後	32	2	○			○		○		
		○	ヘアメイクキャリアアップ	ブライダルヘアメイクの技術をさらに向上させる	2通	128	8			○	○			○	
		○	レストランサービス技能士	国家資格取得に向けての検定対策	2前	32	2	○			○		○		
		○	フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケやヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2通	64	4			○	○			○	
		○	空間コーディネート	披露宴会場などの空間のコーディネートに関する技術を身に付ける	2後	32	2	○			○			○	
		○	ブライダル情勢論	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	2前	32	2	○			○			○	
		○	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1後 2後	64	4			○	○		○		
合計					45科目		2944単位時間( 184単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修・選択必修科目は90単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
東京観光専門学校	昭和57年10月1日	玉井 正人	〒162-0843 東京都新宿区 市谷田町3丁目21番地 (電話) 03-6734-2939																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人 Adaichi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区 神田駿河台2-11 (電話) 03-3292-0662																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	観光専門課程	ブライダル学科 (イベントプロデュース専攻)	平成12年2月8日 文部科学省告示第15号	-																						
学科の目的	ニーズが多様化しているブライダルにおける演出を手掛ける人材の育成を目的とする ①企業と連携した実習授業を行いブライダル業界における高い専門的な技術と知識の修得を図る。 ②一般教養としてビジネスマナーやコミュニケーション能力の向上を目指す。																									
認定年月日	平成28年2月29日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	1920	1568	0	1504	0	0																				
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
20人	0人	0人	6人の内数	14人の内数	20人の内数																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、試験、授業態度による総合評価																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日 ■学年末:3月31日	卒業・進級条件		卒業単位の取得が条件																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談や三者面談、カウンセラーの紹介を行っている	課外活動		■課外活動の種類 各種イベント、ボランティア活動、クラブ活動を行っている  ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 結婚式専門式場、ホテル、レストラン、ドレスショップ、ジュエリーなど ■就職指導内容 就職対策、面接練習、応募書類添削、グループディスカッション対策など ■卒業生数: 0 人 ■就職希望者数: 0 人 ■就職者数: 0 人 ■就職率: 0 % ■卒業者に占める就職者の割合: 0 % ■その他 ・進学者数: 0人  (平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)	主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																						
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BAIブライダルコーディネーター技能検定3級</td> <td>②</td> <td>44人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>パーソナルカラー検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>フォーマルウェア検定準2級</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>30人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	BAIブライダルコーディネーター技能検定3級	②	44人	30人	パーソナルカラー検定	③	6人	5人	色彩検定3級	③	8人	7人	フォーマルウェア検定準2級	③	32人	30人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
BAIブライダルコーディネーター技能検定3級	②	44人	30人																							
パーソナルカラー検定	③	6人	5人																							
色彩検定3級	③	8人	7人																							
フォーマルウェア検定準2級	③	32人	30人																							
				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄																						
中途退学の現状	■中途退学者 0名 平成30年4月1日時点において、在学者0名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者0名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由		■中退率 0%																							
■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個人面談、保護者との面談、初年度教育の徹底、補習の実施など																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度(授業料減免制度)  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf">http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/base_bridal.pdf</a>																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進



### 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。

ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、特にイベントプロデュース専攻では、全体の構成や時間配分などの理解に不可欠なものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、字校長の下部、教員組織である字務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
西田 篤史	株式会社FeelingDesign	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
鷺坂 伸子	株式会社エッセ	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
野口 幸一	一般財団法人ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
荒川 明美	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
近藤 紗貴	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
葛原 加奈子	東京観光専門学校	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月23日 14:00～16:30

第2回 平成31年2月15日 14:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け平成30年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③内定後は自分の課題を見つけ、改善して卒業できるような指導。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

科目名	科目概要	連携企業等
ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じて学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ
0	0	0

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「プライダル業界が求める人材教育について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:平成30年8月23日(木) 対象:プライダル学科教職員全員

【目的】①プライダル業界が社員に求める最新の知識や技術を理解する。

【内容】①プライダル業界の現状について

②業界が求める、ビジネスマナー、一般常識について

③業界が求める人材について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ」(連携企業等:国際プレゼンテーション協会)

期間:平成30年7月26日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①プレゼンテーションの基本的な理論と技術を学ぶ。

②基本習得と体験を通じて、プレゼンテーションの自己課題を見つける。

③プレゼンテーション力を通じて、自分の授業を見直し、また学生指導に役立てる。

【内容】①伝わるプレゼンテーションの基本構造。

②わかりやすい話し方の組み立て方。

③効果的で効果的な考え方。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「プライダル業界の最新動向と求める人材について」(連携企業等:株式会社FeelingDesign)

期間:令和元年8月16日(金) 対象:プライダル学科教職員全員

【目的】①プライダル業界の現状を知り、最新の施設や取り組みを理解し学生指導に役立てる。

【内容】①チームワークを必要とする業務が増加する。そのためコミュニケーション力、提案力ができる力を付けることが必要。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生との関わり方を学ぶ」(連携企業等:心理カウンセラー)

期間:令和元年6月13日(木) 対象:全職員

内容:

【目的】①学生の、こころの状態を把握することで最善の関わり方がわかる

②こころに影響を与える性格を理解することで的確なアドバイスが行えるようになる

【内容】①こころの形を学ぶことで学生のそれぞれの状態を把握しやすくなる。

②意識はマイナスなことに働きやすいが、プラスなことに頭を使うことで生産性を上げる方法を学ぶ。

③性格を理解することが学生を理解することを学ぶ。

④性格は5つの特徴で表される。その5つの特鋼を学ぶ。

⑤性格の良い悪いは環境によるところを学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができていないか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関係業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法、内容、ガバナンスの3つの柱を基本に評価をいただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性は明確になっているか、将来構想はあるか、など
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3) 教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されてい
(7) 学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8) 財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10) 社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11) 国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営をレベル別クラスに分割で行うなど、より学生の実情にあわせたものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 友子	日本ケアフィット共育機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
野口 幸一	ホスピタリティ機構	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
明石 伸子	日本マナー・プロトコール協会	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	協会役員
小林 隆	東武旅行サービス株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
西田 篤史	株式会社Feeling Design	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
関口 恭一	株式会社CALMO	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
寺田 成利	スカイマーク株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
大澤 直美	ニューヨークキャリアアカデミー	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業役員
米倉 洲	東武トップツアーズ株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生
間宮 康平	東京地下鉄株式会社	平成(令和)元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information\\_disclosure.pdf](http://www.tit.ac.jp/disclosure/pdf/information_disclosure.pdf)

公表時期: 令和元年5月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.tit.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科イベントプロデュース専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ブライダルビジネス実務Ⅰ (業界研究)	ブライダル業界における職種や企業研究	1通	128	8	○			○		○		
○			ブライダルビジネス実務Ⅱ (ウェディングセレモニー (挙式))	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学び、模擬挙式の発表を行う	1通	64	4			○	○		○	○	
○			ブライダルビジネス実務Ⅲ (ブライダル情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンドを学ぶ	1通 2通	160	10	○			○		○		
○			就職対策・ビジネスマナー	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方、また「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	1通 2通	128	8	○			○		○		
○			接客英語 (筆記対策 (一般常識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1通	64	4	○			○			○	
○			料飲サービス実務Ⅰ (披露宴制作ⅠⅡ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕方、流れを実習を通じて学び模擬披露宴の準備から発表までを各自が主体的に行う	1通 2通	160	10			○	○		○	○	
○			料飲サービス実務Ⅱ (映像製作)	撮影カメラの扱い方および映像の収録、編集を学ぶ	1通	64	4			○	○			○	
○			料飲サービス実務Ⅲ (選曲知識)	結婚式、披露宴の際の各場面に合わせた音楽の選び方	1通 2通	128	8	○			○			○	
○			ブライダルビジネス実習Ⅰ (披露宴知識)	披露宴に必要な事柄の由来などを学ぶことで、披露宴に対する知識を深める	1通	64	4	○			○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は96単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科イベントプロデュース専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ブライダルビジネス実習Ⅱ (インターンシップ)	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1後	64	4			○		○			
○			ブライダル知識 (ブライダルファッション実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わせ方を学ぶ	1後	32	2			○	○			○	○
○			リアルビジネスⅠ (ブライダルゼミ)	産学協同に向けた実践	1前	32	2	○			○			○	
○			リアルビジネスⅡ (卒業制作)	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	1後2後	64	4			○	○			○	○
○			リアルビジネスⅢ (卒業制作)	2年間習得してきたことをもとにブライダル業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2前	32	2			○	○			○	○
○			演出論Ⅰ (演出企画)	イベントの演出についてを学ぶ	1通	64	4			○	○			○	
○			パソコン実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を身に付ける	1通2通	128	8			○	○			○	
○			ホスピタリティ産業論Ⅱ (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1前	32	2	○			○			○	
○			ウエディングプロデュース論 (音響・照明オペレーション実習)	結婚式、披露宴の際に必要な音響および照明の実践	2通	128	8			○	○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は96単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科イベントプロデュース専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コーディネーター実務 (イベント知識)	イベントの企画の立案から実行までの理論を学ぶ	2通	64	4			○	○			○	
○			会場装飾実務 (空間コーディネート)	会場の演出の実践	2通	128	8			○	○			○	
○			会場装飾概論 (ホテル概論)	ホテル業界について学ぶ	2通	128	8	○			○			○	
○			インテリアコーディネート (カラーコーディネート検定対策)	色彩検定対策	2通	64	4	○			○			○	
		○	検定対策	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得を目指す	1通 2通	256	16	○			○			○	
		○	検定補習	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得のための補習授業	1通 2通	256	16	○			○			○	
		○	語学	実用英語検定の取得やTOEICスコアの向上を目指す	1通 2通	256	16			○	○		○	○	
		○	メイク	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1通 2通	128	8			○	○		○		
		○	フラワー	ブーケ及び会場装飾の為の花の技術を身に付ける	1通 2通	128	8	○			○			○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は96単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(観光専門課程ブライダル学科イベントプロデュース専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	インターンシップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1通	128	8			○		○			
合計						28科目	3072単位時間( 192単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件・・・108単位以上を取得。 その内必修科目は96単位以上取得しなければならない	1学年の学期区分	2期
履修方法・・・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。